

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	23	一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握、意思決定、「生きがい」を目標にした計画の作成に努める。	生きがいにつながる支援計画の作成を目指し、形式的になりがちなサービス内容をその人の人生支援計画書に近づける。また、視点の持ち方や支援の方法などを深め全体で取り組んでいく。	①役割・人との繋がり②楽しみ・習慣③自分らしさ・誇り、今のその人の価値観などに視点を置き、大きな生きがいではなく、日々実感することのできる具体的で、生活に直結し、ご本人が「できた」と感じることでできる設定を意識する。また、観察・声かけ・任せる・振り返るを意識しながら支援し、「やってあげる」ではなく「どう関わるか」を考えることで生きがいに繋がり、生活の満足感を高める。	12ヶ月
2		日頃から担当職員がご家族と面会時などケアについて話をしたり、モニタリングなどで家族と話し合うことはあるが、サービス担当者会議への家族参加が少ない。	ご家族と意見を交わしながら、サービス担当者会議の開催を目指す。日頃の情報共有を大切に、わずかな会話の積み重ねをサービス担当者会議に活かしていく。	日頃からの会話を重要視し、意向をサービス担当者会議に反映させる。日頃の会話での、情報共有、意向をミニカンファレンスとし家族参加同様の位置付けに工夫する。	12ヶ月
3		運営推進会議を、地域、家族、施設と一緒に、よりよいグループホーム運営を考えるための話し合いの場とする。	所内だけでは解決できない課題や困りごとを推進委員で共有し、本人らしい生活を支えるために専門的な立場からの助言やご意見をケアや支援方法の改善に繋げる場とする。	運営推進会議でケアの工夫や悩みを報告したり、身近な会議の場として、困難事例など地域、行政など専門職の意見をもとに、地域の取り組みとしていく。また、相談する場があることで、職員の疲弊した気持ちの解消や安心感に繋がる効果を期待する。	12ヶ月
4					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。